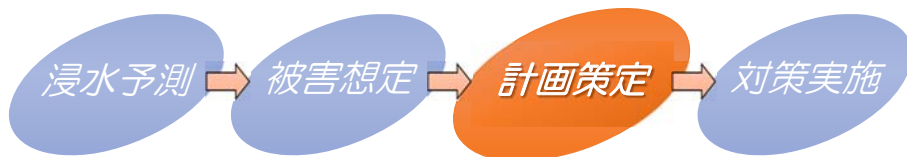


津波に強い都市づくり

津波対策の段階



背景

- ・東日本大震災を受け、大津波の対策が不可欠ですが、市町村の総合的な対策は進んでいません。
- ・総合的な対策を検討するためには、市街地の課題を把握するデータベース等のツールの構築が不可欠です。

成果

1 市街地属性データベースの構築

避難・復旧・復興の各段階で津波対策の検討に必要なデータを明確化

浸水予測図



夜間・昼間人口

→ 要援護者等の把握

建築年から見た住宅地年代

→ 地震倒壊危険性の把握

用途地域

→ 土地利用の把握

安全な地点への距離

→ 避難距離の把握

図1 整備データの例

太平洋沿岸の都市を対象に、GISを用いて津波対策に必要な市街地属性データベースを構築し、課題を明確化

2 対策の具体化

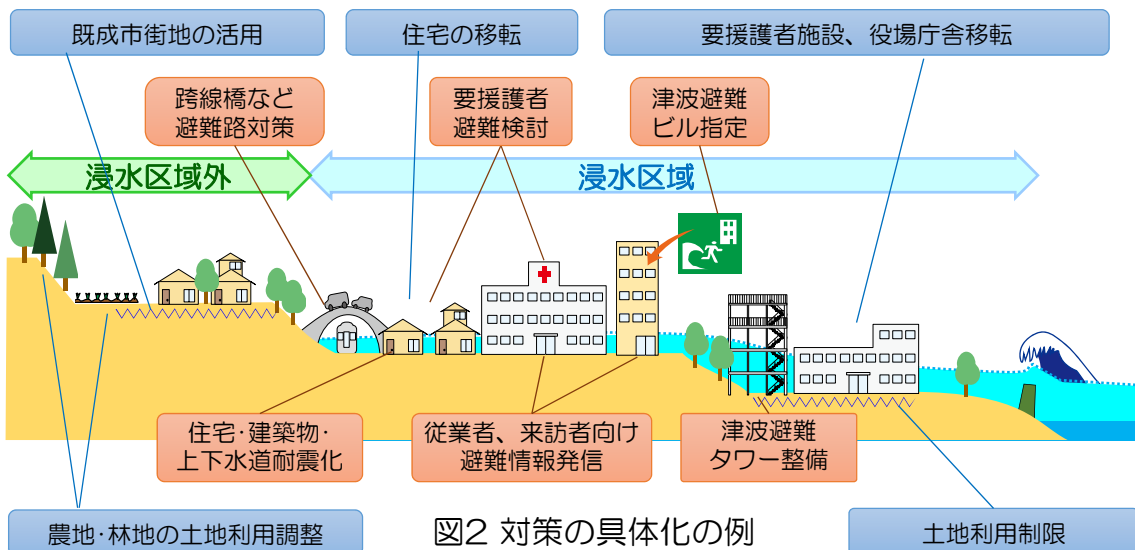


図2 対策の具体化の例

- 避難に向けた対策
- 減災及び早期復旧・復興に向けた対策

津波避難安全性や早期復旧・復興を目指し、津波防災都市づくりへ向けた対策を具体化

期待される効果

- 市街地属性データベースにより、市町村の土地利用制限といった津波対策の検討が可能となります。
- 平成28年度経常研究などにおいて、モデル都市での計画策定に活用予定です。